

「 令和元年度 学校評価実施報告書 」

学校（園）名 （ 鳴門市第一中学校 ）

学校（園）長名 （ 三 浦 克 彦 印 ）

1 平成31年度 重点評価項目

1 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 2 生徒の自己有用感を育てる 3 全教職員で取り組む生徒指導

2 アンケート評価

対 象	実施日（期間）
教職員	令和2年年2月12日～19日
児童・生徒	令和元年12月6日～13日
保護者	令和元年12月6日～13日
地域・その他	

3 自己評価

評 価 日	令和2年3月18日・19日
評価者・組織（名称）	全教職員
プラスの評価	・教職員が重点目標を共通理解し、実現に向けて意識して教育活動に取り組めた。・きめ細やかな指導により、落ち着いて授業を受けることができた。・いじめの早期発見、早期対応に組織として取り組み解決を図っている。・生徒のよい面や言動を積極的に見つけ、肯定的な声かけができた。
マイナスの評価	・学び合いウイーク（教職員相互の授業参観）の実施効果は得られているが、実施率の向上が課題である。・地域の教育力を活用した教育活動が少ない。・知識や技能を活用する力が育っていない。
改善方策・意見	・業務改善により教職員の時間の確保を進めることで授業改善や指導力の向上を図る。「総合的な学習の時間」を活用し、新たな課題に対しての教科横断的から、効果的な取組を推進する。
公表日・方法	令和2年3月末より学校ホームページにて公開

4 学校関係者評価

評 価 日	令和2年3月16日
評価者・組織（名称）	学校関係者評価委員会（学校評議員5名とP.T.A会長）
プラスの評価	・防災学習に力を入れ、様々な工夫をし取り組んでいることで、生徒の防災意識の向上につながっている。今後も続けてほしい。・バトンタッチ作戦は効果が出ているので今後も続けてほしい。
マイナスの評価	・不登校生徒への対応をさらに充実していくこと。・様々な家庭環境を理解し子どもの現状を見据え関係機関等の連携し対応をしていくことも大切である。
改善方策・意見	・生徒一人一人との関わりの中で子どもの現状を見据えて対応してほしい。・効果的な取組は継続するべきである。
公表日・方法	令和年3月末より学校ホームページにて公開

5 総括・次年度の課題

ここ数年継続してきたバトンタッチ作戦やボイスシャワー（認め、褒め、励ます）などの取り組みが、チーム鳴一として一丸となって取り組む教職員集団になってきている。また、新校舎完成に伴い、教室環境や学習環境などが整備され、のびのびと生徒が意欲的に学習できるよう、学習方法の工夫改善に努めている。今後も続けてほしい。スマホやSNS等のトラブル回避のためには、安全な利用の仕方について生徒とともに保護者へ啓発が重要である。不審者対策では、自動ドアの開閉をインターホンの通知時に自動操作できないのは、非常に危機感を感じる場所である。学力向上については、数値だけを追い求めるのではなく、大規模校であるだけに魅力のある「生きる力」を身につけさせていくことが重要である。